

## 組合員の生活を守るための夏季手当を求めて奮闘し続ける盛岡地本見解

本日(6月10日)、JR東労組は会社との間で申13号「2021年度夏季手当等に関する申し入れ」の第3回団体交渉を行い、本社より「2.0カ月分の支給」との回答を受けたが、JR東労組は組合員と声を寄せてくれている未加入者の生活を守るための回答ではないと判断し、第4回団体交渉の開催を求め、交渉の継続を主張した。しかし、本社はそれに応じる姿勢を示さなかったことから、JR東労組は再申し入れをせざるを得ず、同日①2021年度夏季手当の回答を撤回し、昨年同月数である基準内賃金の2.4カ月とすること②新型コロナウイルス感染症対応に対する特別手当として、全従業員(出向者含む)対象に5万円を支給すること③JR東日本グループ社員のエンゲージメントを向上し「変革のスピードアップを実現するため、JR東日本グループ全従業員(出向者含む)対象にびゅう商品券5万円を配布すること」との内容で提出した。

昨年の夏季手当を巡る団体交渉では、会社は2019年度決算よりも足元の4月、5月の業績を優先して回答を示し、JR東労組も妥結する判断を行った。昨年の議論の通り、足元を見ると今年度の4月の収入は対前年比214.8%となっているほか、GWの利用状況も増加している。昨年の回答根拠となった足元の業績に踏まえると昨年以下の回答は認めることができない。

また、昨年の夏季手当、年末手当の減額や、21春闘では定昇カットにより、組合員や未加入者の生活レベルは落ち込んでいる。その切実な声は地方本部へも数多く寄せられ、各職場の掲示板においても明らかになっている。しかし、会社は「社員それぞれライフスタイルは違う。社員の支出については様々なケースがあり一概には言えない」との主張を行い、本日の団体交渉で再度訴えても「第2回交渉時に聞いた」「それを踏まえた回答」「コロナ対策手当含めての回答」「びゅう商品券分も含めての回答」を繰り返し、組合員、未加入者の生活に重きを置いた考えを述べることがなかった。

業績が良好の時は「先行き不透明」「突出感は出せない」と常に低額に抑えるための理由を示してきたが、その結果がJR発足時の純資産が2020年度に621%になっているのに対して、人件費は101%、基準内賃金は143%に留まっていることに現れている。そして、2025年度末に3兆円の営業収益をめざすことが打ち出されているが、人件費は2025年度まで2020年度並みに抑制していくとの考えからは、今後も人件費が抑制されていくことは明らかである。

この間、JR東労組は赤字コロナ禍の中で緊急提言を発し、盛岡地本ではJRのコロナ対策を社会的アピールする取り組みやBUYJRの取り組みを軸に進めてきた。JR東労組組合員は年収10%カットの中でも黒字化にむけた努力を具体的に続けている。そして、社会はワクチン接種が徐々に進みはじめ、JRの利用者も増加してきている中で今年度は会社も黒字化を見込んでいる。これから会社は、3兆円企業をめざして進んでいくが、私たち労働者には犠牲と我慢だけが強いられていくことを許すことはできない。

JR東労組には組合員のみならず、多くの未加入者からも多くの声が寄せられている。現在、親睦団体として社友会が存在しているが、所属する会員が職場課題を相談した際に「そのような声を聞くための組織ではない」と一蹴されたとの相談も寄せられている。このことは親睦団体の限界性を示しており、労働者の視点から意見し、または活動する組織ではないことを明確に現わしている。

JR東日本で働くみなさん！黙ったままで良いのでしょうか！誰もが安心して仕事と生活を行うための労働環境が大切ではないのでしょうか！JR東労組は社会環境の変化を認めつつも、その中でも組合員の安全・健康・ゆとり・働きがい・豊かさを実現させ、JR東日本会社を健全に発展させるために努力し続けます！いまこそ、JR東労組へ結集し、将来を共に創っていきましょうではありませんか！

そして、JR東労組の組合員のみなさん！組合員の生活を守るための夏季手当を求めて、全組合員で力を合わせてたたかい抜こうではありませんか！